Ⅱ　調査結果の概要

1　総括

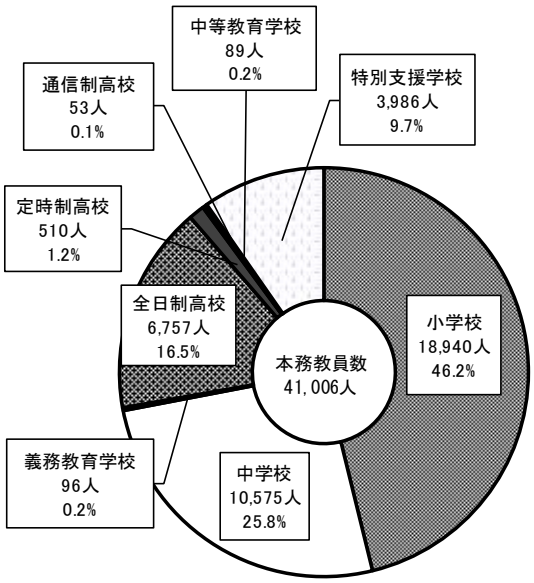
令和７年10月1日現在の県内公立学校の本務教員数は41,006人でした。

学校種別教員数をみると、小学校が最も多く、教員数全体の46.2%を占めています。以下、中学校が25.8%、全日制高等学校が16.5%、特別支援学校が9.7%、定時制高等学校が1.2%、中等教育学と義務教育学校が0.2%でした。

男女別構成比をみると、男性教員の割合が最も高いのは高等学校（全日制、定時制及び通信制合計）で66.3%、女性教員の割合が最も高いのは小学校で62.1%でした。

年齢構成をみると、全ての学校種で30歳代の割合が最も高くなりました。中等教育学校が41.6%と割合が最も高く、次いで、特別支援学校が37.7%でした。

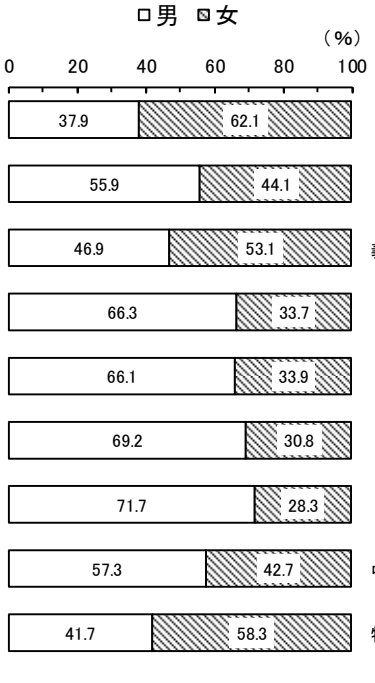
図１　学校種別教員数



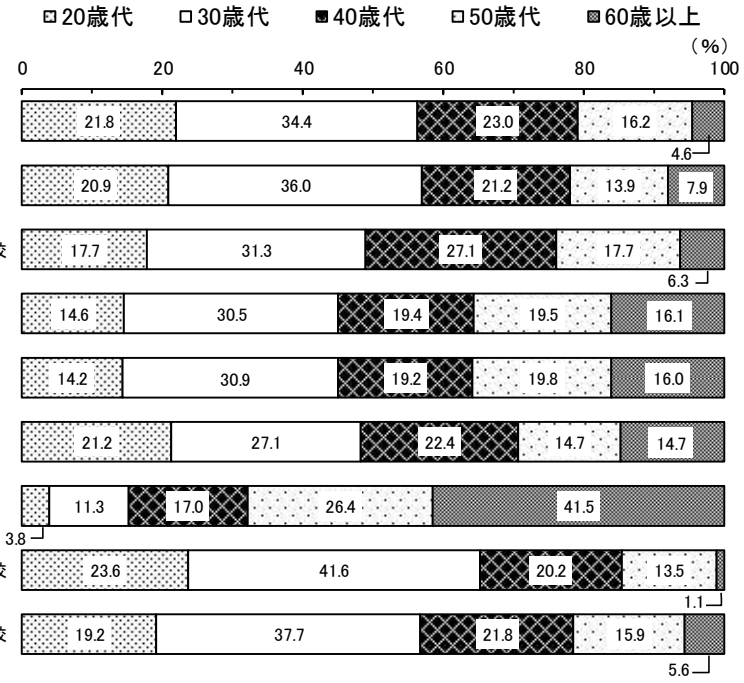
第１表　本務教員数、平均年齢及び男女比

区分		本務教員数（人）			平均年齢（歳）			男女比（%）		
		令和7年度	令和4年度	増減	令和7年度	令和4年度	増減	令和7年度	令和4年度	増減
合計	計	41,006	40,656	350	40.7	41.1	△0.4	100.0	100.0	－
	男	19,715	19,753	△38	41.1	41.7	△0.6	48.1	48.6	△0.5
	女	21,291	20,903	388	40.3	40.5	△0.2	51.9	51.4	0.5
小学校	計	18,940	18,720	220	39.8	39.8	－	100.0	100.0	－
	男	7,187	7,100	87	39.5	39.5	－	37.9	37.9	－
	女	11,753	11,620	133	40.0	40.0	－	62.1	62.1	－
中学校	計	10,575	10,593	△18	40.2	40.9	△0.7	100.0	100.0	－
	男	5,912	5,984	△72	40.4	41.3	△0.9	55.9	56.5	△0.6
	女	4,663	4,609	54	40.0	40.5	△0.5	44.1	43.5	0.6
義務教育学校	計	96	21	75	41.4	45.9	△4.5	100.0	100.0	－
	男	45	10	35	41.7	49.4	△7.7	46.9	47.6	△0.7
	女	51	11	40	41.1	42.8	△1.7	53.1	52.4	0.7
高等学校計	計	7,320	7,526	△206	44.0	44.9	△0.9	100.0	100.0	－
	男	4,856	5,069	△213	44.6	45.7	△1.1	66.3	67.4	△1.1
	女	2,464	2,457	7	42.9	43.2	△0.3	33.7	32.6	1.1
全日制	計	6,757	6,974	△217	44.1	45.0	△0.9	100.0	100.0	－
	男	4,465	4,676	△211	44.7	45.8	△1.1	66.1	67.0	△0.9
	女	2,292	2,298	△6	42.9	43.3	△0.4	33.9	33.0	0.9
定時制	計	510	503	7	42.3	42.4	△0.1	100.0	100.0	－
	男	353	359	△6	42.3	43.2	△0.9	69.2	71.4	△2.2
	女	157	144	13	42.3	40.7	1.6	30.8	28.6	2.2
通信制	計	53	49	4	53.6	53.3	0.3	100.0	100.0	－
	男	38	34	4	53.6	53.6	－	71.7	69.4	2.3
	女	15	15	－	53.8	52.8	1.0	28.3	30.6	△2.3
中等教育学校	計	89	52	37	38.0	37.6	0.4	100.0	100.0	－
	男	51	32	19	36.0	37.0	△1.0	57.3	61.5	△4.2
	女	38	20	18	40.7	38.6	2.1	42.7	38.5	4.2
特別支援学校	計	3,986	3,744	242	40.1	40.3	△0.2	100.0	100.0	－
	男	1,664	1,558	106	40.3	40.6	△0.3	41.7	41.6	0.1
	女	2,322	2,186	136	39.9	40.1	△0.2	58.3	58.4	△0.1

第２図　学校種別教員の男女比



第３図　学校種別教員の年齢構成

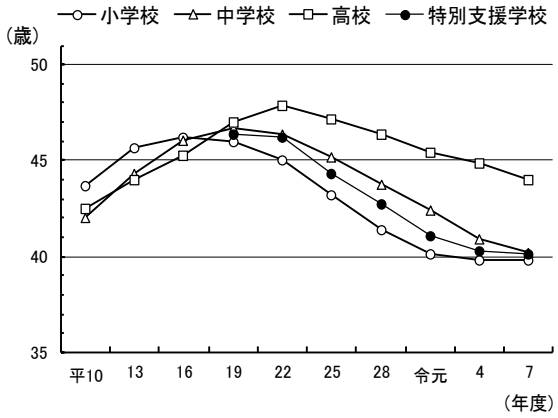


２　平均年齢の推移

小学校、中学校、高等学校（全日制、定時制及び通信制の合計。以下同じ）及び特別支援学校について、教員の平均年齢をみると、小学校の39.8歳が最も低く、次いで特別支援学校の40.1歳、中学校で40.2歳、高等学校で44.0歳でした。

令和７年度と令和４年度の教員の平均年齢を比較すると、小学校以外の全ての学校種で平均年齢が低下しました。また、平成22年度以降は平均年齢の低下傾向が続いています。

第４図　学校種別教員の平均年齢の推移



第２表　学校種別教員の平均年齢の推移

（単位：歳）

区分 / 年度	小学校			中学校			高校（全・定・通）			特別支援学校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成 10	44.3	43.4	43.7	42.7	40.8	42.0	43.1	40.4	42.5	…	…	…
13	46.1	45.5	45.7	45.1	43.0	44.3	44.7	41.9	44.0	…	…	…
16	46.5	46.1	46.2	47.0	44.5	46.1	46.2	42.7	45.3	…	…	…
19	46.7	45.6	46.0	47.9	44.7	46.7	48.0	44.2	47.0	47.7	45.2	46.4
22	45.4	44.7	45.0	47.9	44.3	46.4	49.0	45.0	47.9	47.8	44.9	46.2
25	43.9	42.8	43.2	46.5	43.5	45.2	48.2	44.9	47.2	46.2	42.9	44.3
28	42.2	40.9	41.4	44.6	42.6	43.8	47.3	44.2	46.4	44.4	41.5	42.7
令和 元	40.6	39.9	40.1	42.9	41.7	42.4	46.4	43.4	45.4	41.9	40.4	41.1
4	39.5	40.0	39.8	41.3	40.5	40.9	45.7	43.2	44.9	40.6	40.1	40.3
7	**39.5**	**40.0**	**39.8**	**40.4**	**40.0**	**40.2**	**44.6**	**42.9**	**44.0**	**40.3**	**39.9**	**40.1**
対令和4年度	－	－	－	△0.9	△0.5	△0.7	△1.1	△0.3	△0.9	△0.3	△0.2	△0.2

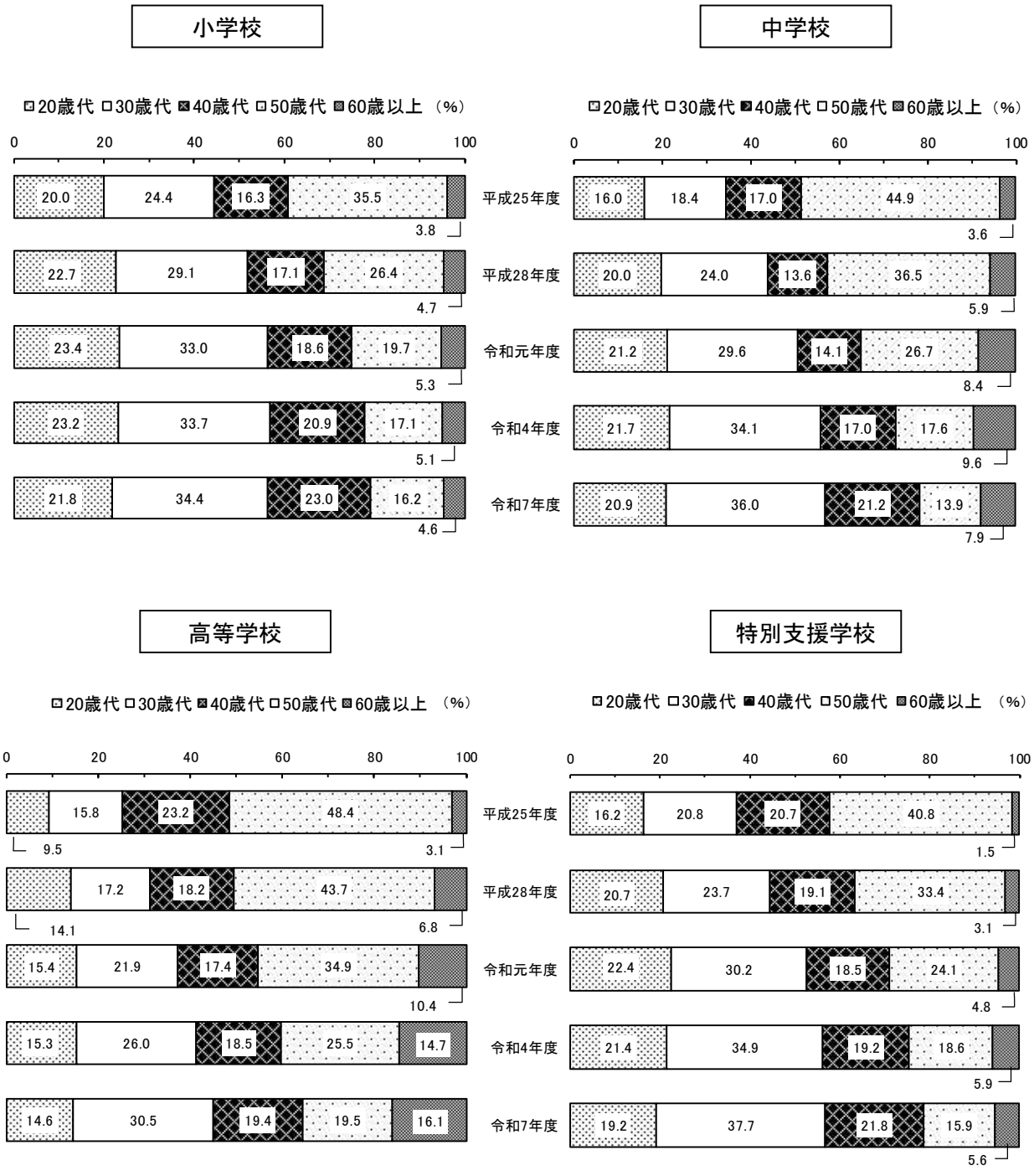
※　平成10、13及び16年度の特別支援学校については公表されていない。

３　年齢構成の推移

平成25年度からの年齢構成の推移をみると、いずれの学校種でも、20歳代の割合が落ち着いてきている一方、30歳代の割合は引き続き増加傾向にあります。また、小・中学校、高等学校（全日制、定時制及び通信制の合計）及び特別支援学校において、50歳代の割合が大きく減少しています。

高等学校（全日制、定時制及び通信制の合計）は、60歳以上の割合が増加傾向にあります。

第５図　年齢構成の推移

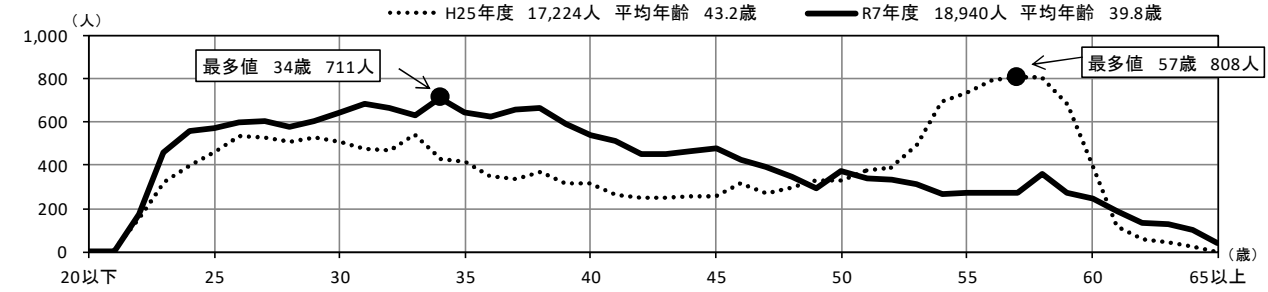


平成25年度と令和７年度を年齢別に比較すると、平成25年度は、いずれの学校種においても50歳代に人数のピークがありましたが、令和７年度には、小学校、中学校、特別支援学校で、人数のピークが30歳代前半に移っています。

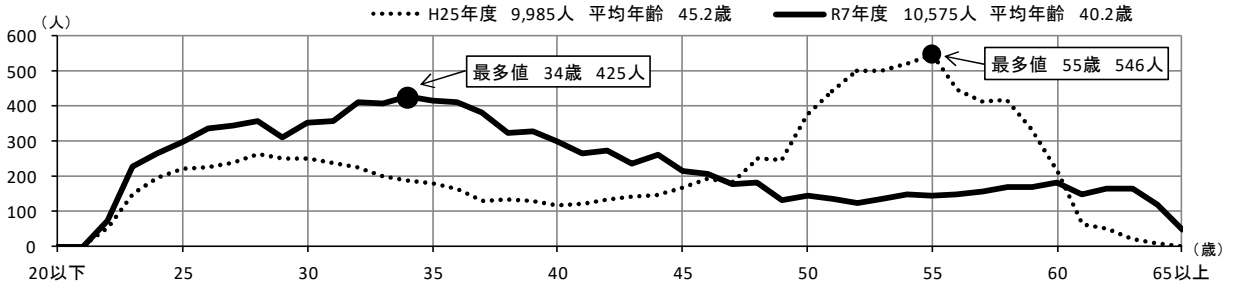
いずれの学校種においても平均年齢が低下していますが、60歳代の教員数は増加しています。

第６図　年齢別教員数の推移（平成 25 年度との比較）

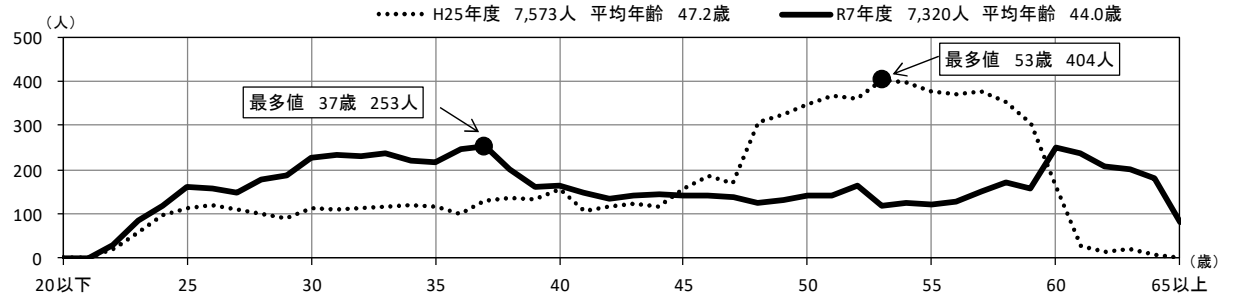
小学校



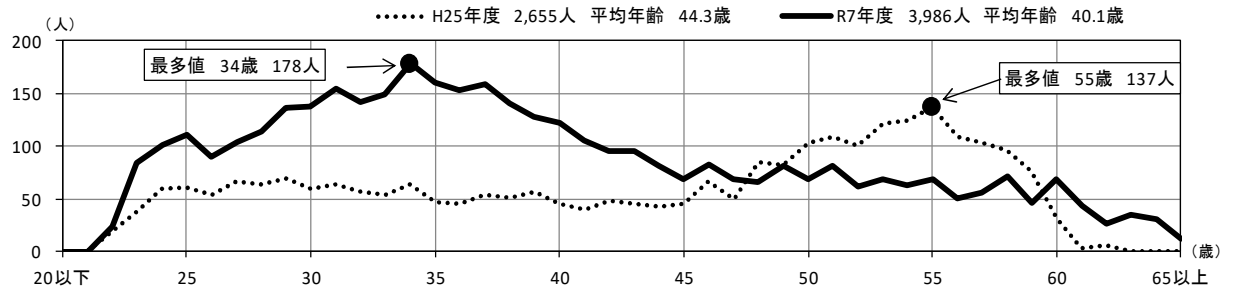
中学校



高等学校



特別支援学校



4　地域別市町村立小・中学校の状況

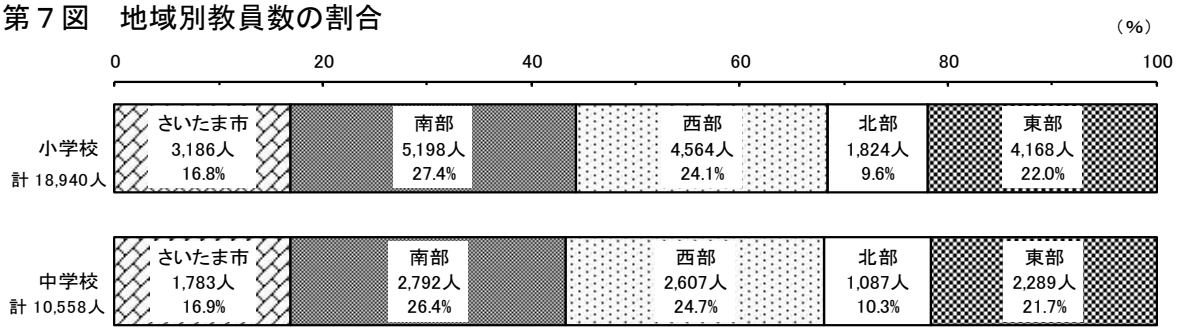
地域別に教員数をみると、最も人数が多いのは、小学校が南部教育事務所管内で全体の27.4%、中学校でも南部教育事務所管内で26.4%でした。

地域別に教員の年齢構成をみると、小学校及び中学校で、どの地域でも30歳代の割合が最も高く、いずれも30%を超えています。

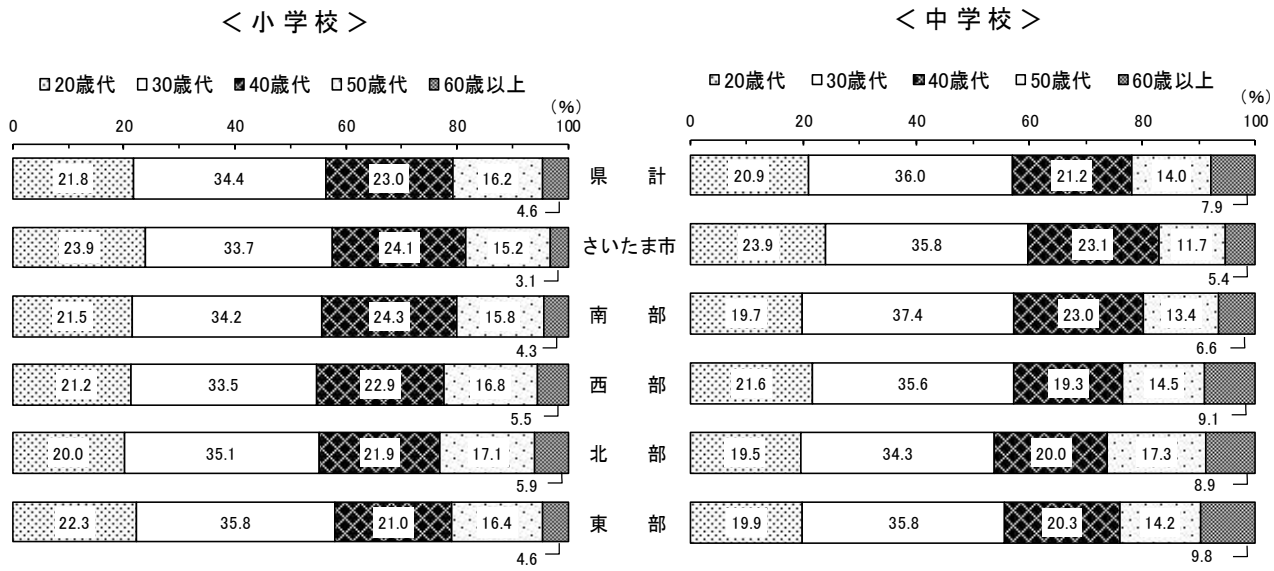
教員の平均年齢が最も低いのは、小学校がさいたま市で39.0歳、中学校でもさいたま市で39.0歳でした。最も高いのは、小学校が北部教育事務所管内で40.5歳、中学校でも北部教育事務所管内で41.1歳でした。平均年齢の最高と最低の差は、小学校が1.5歳、中学校が2.1歳でした。

※　市町村の地域については、８ページを参照してください。

第７図　地域別教員数の割合



第８図　地域別教員の年齢構成



第９図　地域別教員の平均年齢

